



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2019年8月11日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:2名(うち子ども1名)、

指導員:3名

テーマ 「夏の虫を探そう」

6月と7月は天気が今一つで虫をテーマとした観察ができませんでしたので、久しぶりに晴天に恵まれた今回は虫の観察です。高温に注意が必要なので、日光を遮るものがない川原を避けて、公園の樹木の間を歩いて虫探しをしました。

アベリアの花にクマバチとタイワンタケクマバチが吸蜜に来ており、両者の体形や体色の違いを見比べることができました。タイワンタケクマバチは2006年に豊田市で最初に確認された比較的新しい外来生物ですが、その後急速に生息域を広げたのか、よく目にするようになりました。体形がクマバチよりスマートで、胸部が黒色で、翅も黒みがかっていますが、光の当たり方によって紫色を帯びて見えたりしてきれいです。

樹液が出ている場所にはサトキマダラヒカゲやジャノメチョウが集まっていた。アラカシ、スタジイ、コナラといったブナ科の樹木でよく目にしましたが、サクラなどの幹でも見かけました。

セミは、賑やかなクマゼミとアブラゼミの声に混じって、ニイニイゼミ、ツクツクボウシの声も聞かれましたが、幹や枝についた抜け殻をみると、何故かアブラゼミばかりでクマゼミのものは見つかりませんでした。アブラゼミの個体数が圧倒的に多いのか、羽化する場所が違うのでしょうか。

堤防脇の草原ではショウリョウバッタとオンブバッタが飛び出しました。よく似たバッタですが、オンブバッタは頭部から胸部にかけて細かなイボ状の突起があり区別できます。ルーペで両者を比較して見ました。

トンボはというと、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボはよく目にしましたが、それ以外はギンヤンマ、ミヤマアカネ、マユタテアカネをそれぞれ1頭見ただけでした。昨年まではモクバラの池で、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボなどを見ていましたし、マユタテアカネも木陰でかなりの数を見かけたのですが、今年は数が減ってしまったようで、今後が心配です。(齋竹)

<その他観察できたもの>

虫: ジャコウアゲハ、キタキチョウ、アオスジアゲハ、ツバメシジミ、アサマイチモンジ、ツマグロヒョウモン、コムスジ、ハラビロカマキリ

鳥: ツバメ、カワラヒワ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、ホオジロ、ハシボソガラス、ウグイス(声)、メジロ(声)

その他: アメリカザリガニ、ウシガエル



(脱皮して間もないハラビロカマキリを観察中)



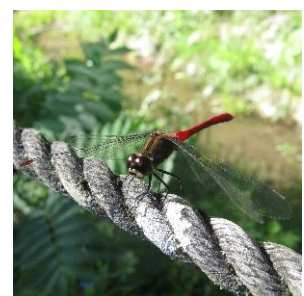
昆虫酒場のチョウ



ショウリョウバッタ



沢山あったアブラゼミの抜け殻



数が減ったマユタテアカネ